



高輪会会報

Reunion of Tokai University Takanawadai Senior High School

東海大学付属高輪台高等学校同窓会会報
(第2号)

発行所：東海大学付属高輪台高等学校同窓会
(仮校舎) 〒105 東京都港区新橋 6-1 9-5

Tel: 03-5470-8235, Fax: 03-5470-8568



題字は東海大学総長松前達郎先生

東海大学付属高輪台高等学校同窓会 新校舎落成・開設50周年記念に向けて

第2号

■同窓会活動の課題



会長
上島 弘安

私が本校を卒業したのは昭和26年3月、日本が太平洋戦争に敗れ世の中が混乱し、生きているのがやっとの時代でした。都心にありながら空襲の被害を免れた木造校舎、校庭はテニスコート一面の広さしかなく小さな学校（現短大の場所）でした。その後、隣接地に鉄筋コンクリートの校舎が新設され、多くの後輩が熱心に学習する姿に接しよくここまで発展してくれたと学校当局の努力に感謝の気持ちをもったのは私のみではないでしょう。

年月の経つのは早いもの、この校舎も老朽化し現在同じ場所に新校舎が着々と建設されています。高校開設50周年にあたる平成10年秋には完成予定になっています。高輪会も学校当局と協力し『新校舎落成・開設50周年記念』の祝賀行事を予定しています。

本校は当初、工業高校として開校しましたので大多数の諸兄が工業課程を卒業されたと思います。時代の要請は時とともに変化し現在工業課程はすべて廃止され、普通科のみになっています。さらに来年度から男女共学の学校に变身します。校名変更、内容の変化に戸惑う方々も多いことと思います。機会ある度に母校に関心を寄せていただきたく願っています。

さて本題である同窓会のありかたについて、私見を述べ皆様の批判を仰ぎたいと思います。

『同窓会費を卒業時に払い込めば後は誰かが何とかするさ』このようにお考えの方が多いいと思います。私自身、会長の役を引き受けなければ多分同じ考えていたと思いま

す。年齢、職業の違い等乗り越え一つの方向を見だし行動することは、たやすいことではありません。限られた役員のみで出来ることではありません。皆様の多様な考えを組織的に吸収し会の運営に生かしたいと考えています。

具体的には幹事会を11月東京プリンスホテルにて開催致します。当日、私ども役員の基本的運営方針を提案し審議していただき、会終了後に懇親会をもち会員相互の親睦を図りたいと計画しています。案内状が届きましたらぜひご参加下さい。

また、母校の様子、会員の皆様の社会での活躍及び先生方の消息を会報でお知らせしたいと企画しています。同期会、クラブOB会を開催した際、ぜひ会の内容を100字程度にまとめ事務局にお知らせください。薄謝を進呈したいと考えています。振り込み先を明記して下さい。

ないないづくしから発足した高輪会ですが、今回2号を皆様にお届けすることができました。資金面では新卒業生の多額な入会金と旧卒業生254名（金額211万円）の維持費の振込をいただき財政はほっとしているところです。今後皆様のご協力のお礼を申し上げます。詳しくは収支決算書をご覧ください。

■ごあいさつ



校長
渡辺 修先生

同窓生の皆様には、創立50周年記念事業募金のお願いのお手紙を差し上げました所、多数の方々より浄財をご寄付いただきました。突然の要請にもかかわらず、早速ご賛同いただき、ありがとうございました。新校舎建設の資金の

一部として大切に使用させていただきます。この場をお借りしてお礼申し上げます。

ところで、本校同窓会は発足以来休眠状態を続けてきましたが、丁度2年前に新しい規約の下で同窓会が再発足しました。役員の皆様の熱心な努力で、順調な活動を続けて来られ、今後の発展の基礎が築かれたように思われます。この活動を通して同窓生の皆様の親交が深まることと期待しています。

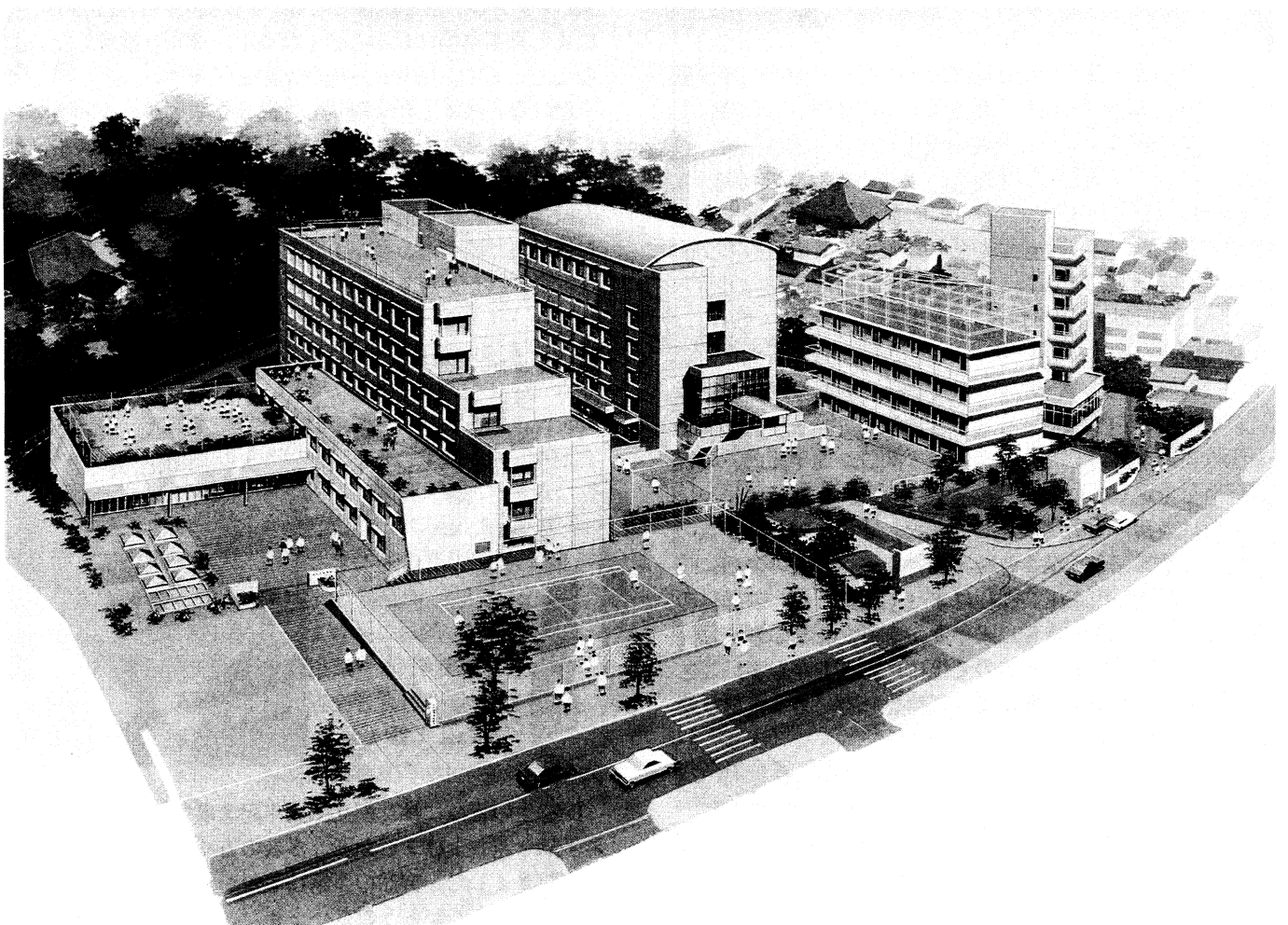
本校の卒業生は既に1万8千名を数え、実社会で華々しい活躍をされています。中には作家や映画監督・芸能人もおられますし、昨年の衆議院選挙では米津等史君（1975年3月卒業）が本校卒業生第1号の国会議員となりました。卒業生の皆様のご活躍は私たち教職員にとりまして、この上ない喜びでございます。又、生徒達にとりましては大きな誇りであると共に、具体的な目標もあります。本校の今後の発展にも大きな力となることと思います。同窓会の発展と同窓生の皆様の益々のご活躍を期待しています。

さて、本校を取り巻く学校経営の状況は日に日に厳しさをましています。東京都では10年後には就学児童数がピーク時の4割へと激減します。特に23区は過疎化も加わって3割も切るようです。私立校間の生徒の奪い合いは勿論、公立私立間の競争も急に厳しさを増して来ました。経済不

況の中で学費の安さを武器に、公立校が厳しい巻き返しに出て来ています。新聞によりますと、都立高校は29校の削減と66校の統廃合が計画されているそうです。これからは皆で仲良くというわけにはいかないとされます。学校の淘汰が行われることは必然で、日本の教育界もようやく質が問われる時代になったようです。私達のように教育に携わる者にとっては大変厳しいことではありますが、社会全体としては大いに希望の持てることと思います。本校は単に生き残りを掛けて努力するのではなく、この危機をバネとして教育の質を高め、信頼される学校造りをしていきたいと思っています。

日本の社会は住専・野村証券・第一勧銀問題等の金融界、薬害エイズ問題等の官界・学会、五百兆円を越える国や地方の借金を造った政界というように、あらゆる所から腐敗の毒液が漏れ出て来ました。さらにオウム真理教・神戸の小学生殺人事件等が示すように、人々の心の病も深刻さを増しています。明治以来百年以上が経過して、多少の修復でどうにもならない所に来ているようです。今や、社会の在り方、一人一人の生き方を根本から見直し、再構築する時に来ていると思われまます。高輪台高校においても教職員一同が力を合わせ、新たな時代を切り開き、逞しく生き抜く事のできる若者を育てていきたいと思っています。

1998年9月新校舎完成予想図



高輪台の未来に向かって

■幾つもの丘を越えて

教頭 杉 一郎先生

社会的な少子化の定着と都心の過疎化によって、公立小・中学校の統廃合が進み、廃校となった旧港区立桜川小学校。その校舎を仮の校舎として早くも1年が経とうとしています。

少子化と都心の過疎化によって、公私立を問わず「過当競争」の波に揉まれることとなった都心の高校の中で、将来への発展と存続のための新校舎建設のために私たち東海大学付属高輪台高等学校が、いみじくも仮校舎としてここ旧桜川小学校に移ったことは、その置かれた状況を如実に象徴しているといえるでしょう。

その新校舎は、地上6階・地下3階の建物の中に、学校施設としては最先端の施設・設備を備え、生徒一人ひとりが快適な高校生活を送ることができるよう様々な配慮がなされています。そんな新校舎の完成を、創立以来私たちの学園を見守り育ててくれた「地域」そして「人々」、つまり「高輪」という素晴らしい環境が待っていてくれることが、何よりの新校舎の魅力であると思います。

そして、新校舎完成の来年8月に先だって、4月から本校は男女共学校として新たなスタートを切ります。50余年に及ぶ本校の歴史とそこから育まれた独自の雰囲気は、都内男子高校の一つの「典型」として、社会的にも認められてきました。また、東海大学の付属高校の中で唯一の男子校としてもその存在を際立たせてきました。しかし、受験生・保護者の共学志向が定着した中で、本校生徒の学力レベルを維持していくためには「共学化」に踏み切らざるを得ない状況を迎えました。

また、現在第3学年に在籍する「情報理数科」生徒の卒業をもって、創立時からの工業系専門科の歴史に幕を閉じることとなります。戦後の社会状況や産業各界の需要に応じた工業科教育の歴史の中で、本校の教育もある意味で工業科教育を一つの柱としてその歴史を刻んできました。その理念やノウハウは、自然な形で普通科の教育の中にも活かされ、今現在も本校の教育の根幹を成しています。

その内容は、新校舎の設備や各教科指導にも様々な形で取り入れられています。例えば、CAI教室。各教科の授業に於いて、コンピューターを活用することで、生徒一人ひとりが主体的に、自分の力に応じて教科内容を理解していくというシステムです。また例えば、家庭科の中の情報処理の授業です。従来の家庭科の枠に把われず、家庭一般の常識として「コンピューター」を学ぶというものです。

こうした教育内容は、将来ますます重要な要素となり、これまで本校の長年に渡る工業科教育の中で培われた本校の「独自性」として発展し続けることでしょう。また、私ども教職員一人ひとりは、その価値を常に認識し尊重し続

けることを使命と感じています。

また、男女共学化に伴い、制服も新しく変わります。時代の流れとともに、制服に対する認識も変化を来し、従前のように単なる「お仕着せ」のユニホームから、着用する生徒自身にとって「着ることが楽しい」生活服としての意味合いが、制服には求められるようになってきました。本校の新制服も、生徒一人ひとりが自由に選択することができるよう、女子に至っては60余りのバリエーションが楽しめるようにサブ・アイテムが用意されています。

このように、東海大学付属高輪台高等学校も大きく変化を遂げつつあります。そこに携わる私たち教職員一同は、もちろん本校にとって「より望ましい未来」を実現するための不可欠な過程として、これからの「変化」を捉え努力を続けています。そして、数十年の後、多くの同窓会員の皆さんが本校の歴史を振り返られた時、これらの「変化」を「発展のための改革」と認めていただけるよう、これからも教職員一丸となって努力していきます。

1998年度入学生より

制服が新しく変わります。



■同窓会活動報告

1995年9月30日(土)高輪プリンスホテルにおいて開催した同窓会総会において、永い間懸案であった同窓会組織の確立を見ることができました。この間1年前より会員名簿の作成に着手し、併せて各期の幹事に呼び掛け、参加してきた人達だけで、会の新発足を目的として、役員等もお願いし、総会にこぎつける事ができました。このように出発からかなり厳しいものがあったわけですが、皆何としても発足にこぎつけなくてはの思いがあったため、成し遂げられたものと思っています。このような状況にあって、次期総会(1998年秋の予定)に向けては意欲ある新人役員候補者の台頭が持たれる所であります。

1996年3月に同窓会誌「高輪会会報」の創刊号の発行をいたしました。今後は毎年8月に発行することになりましたのでお知らせ致しますと共に、今日までの「事業報告」、「会計報告」を致します。

■1996年度(平成8年度)事業報告

◆異業種交流会開かれる

1996年7月20日(土) 於：霞ヶ関校友会館

総会のない年の行事として第1回高輪会異業種交流会が、7月20日(土)に東海大学校友会館(霞が関ビル33階)において多数の同窓生・先生方参加の中、開かれました。講演には教育者として高輪台高校の川端先生が産業人として、同窓生から上条・土方両氏が次のようなテーマで、各々秘話を交えて講演されました。

「中国経済と日本の貿易の行方」

横河ウエザック(株) 上条秀夫氏 (昭37年卒)

「東海大学付属高輪台高等学校と私」

東海大学高輪台高等学校 川端元子先生(国語教諭)

「規制緩和措置とJIS改正の動き」

金門電気(株) 土方啓司氏 (昭36年卒)

上条氏は、中国経済の進展状況の話と共にご自身の中国での豊富な経験を基に、より良く永く“付き合う”ためのポイント・中国の人達の考え方など普段の生活では知り得ないような貴重な、お話を聴くことが出来ました。

川端先生は、高輪台高校に着任したときの抱負や男子生徒のみを(もっとも来年度からは様変わりですが)前にしたときの感慨そして自分の思いと現実が日を追って近づいてゆく様子、等々日頃私達が目にする事のない先生の裏面を垣間見たような気持ちでいっぱいでした。

土方氏は、規制緩和措置と言う硬いテーマでしたが日頃新聞等で目にする“規制緩和”と私達が手にする電気製品がこのような形で結びついているとは驚きでした。これからはもっと注意してニュースを聴いたり、新聞を読んだりしたいものと思われました。



各講師の講演終了後、高輪台高校渡辺校長の音頭取りで懇親会が始まりアルコールも入った勢いで、講演内容の質問その又裏話、そして新旧同窓生の思いもよらない出会い等々で盛り上がり、和気あいあいの内に交流会は解散しましたが、それでも満足できない皆様方は“来年の再会”を約束して三々五々の会場に移られたとのことでした。

◆東海大学付属高校第21回連合同窓会総会

1996年8月23日(金)・24日(土)

第三高校同窓会(長野県)が幹事として、白樺湖において開催されました。本会からは、上島会長・土方副会長・井上幹事の3名の出席予定でしたが、井上幹事が都合で出席出来なくなり2名の参加となりました。総会は全国13校の同窓会から70名を越える出席者があり、盛況裏に終了し、総会後の懇親会では、多くの学校と懇親を深めることができました。



◆臨時役員会

1996年10月16日(土) 於：高輪台高校(仮校舎)

- ①高校50周年記念事業募金への協力について
- ②今年度同窓会活動について
- ③運営上の問題点と改善について
- ④その他

◆記念品テレカの作成 1996年10月下旬

同窓会費納入キャンペーン実施に伴う記念品を、臨時役員会においてテレホンカードと決めその作成に入る。ただし、同窓会のみで300枚でどの印刷では、高いものになるので、学校に協力して戴き、一部買い取りとさせて戴きました。

◆記念品郵送 1996年12月20日(金)

キャンペーン期間中の会費納入者254名に「新校舎記念テレカ」を郵送しました。

◆役員会 1997年1月24日(土) 於：高輪台高校(仮校舎)

- ①住所変更者(郵便宛て先不明者)の処理について(500名弱)
- ②会費納入方法について
- ③1997年度事業計画について
- ④「会報」について
- ⑤「名簿」について
- ⑥その他

■1997年度 事業計画

(1997年4月1日～1998年3月31日)

年	月	事業	
1997	4		
	5	部会(役員会準備) 役員会(予算・決算・事業計画・他)	
	6		
	7		
	8	会報発行(8月末)、連合同窓会	
	9	部会(役員会準備、次年度会誌発行準備・他) 役員会(総会準備・他)	
	10	幹事会	
	11		
	12		
	1998	1	部会(役員会準備、名簿発行計画・他) 役員会(反省会・次年度計画・他)
		2	「同窓会名簿」発行
		3	

《注》次回総会：1998年10月、同窓会名簿発行：総会実施年(3年毎)

■決算報告

◆1996年度 収支決算書

(1996年4月1日～1997年3月31日)

収入の部

(単位：円)

科目	予算	決算	備考
1.前年度繰越金	5,176,506	5,176,506	
2.入会金	4,500,000	4,446,900	10,000円×445(端数：振込み手数料負担による)
3.維持会費	1,000,000	2,116,390	10,000×201名 2,000×52名 2,390×1名
4.預金利息	4,000	4,885	
5.雑収入	0	18,000	名簿売上：2冊 卒業生寄付10,000円
合計	10,680,506	11,762,681	

支出の部

(単位：円)

科目	予算	決算	備考
1.会議費	100,000	83,020	役員会食事代・他
2.広報費	30,000	266,000	会報発送関係
3.渉外費	20,000	188,000	連合会会費・他
4.印刷費	1,000,000	704,660	はがき、振込用紙、会報、テレホンカード
5.通信費	1,000,000	1,039,120	会報送料他
6.旅行交通費	300,000	72,080	連合同窓会、他
7.事務雑費	50,000	0	
8.予備費	300,000	0	
9.次年度繰越金	7,430,506	9,409,801	
合計	10,680,506	11,762,681	

◆1997年度 収支予算書

(1997年4月1日～1998年3月31日)

収入の部

(単位：円)

科目	予算	備考
1.前年度繰越金	9,409,801	会費前受金含む
2.入会金	4,600,000	10,000円×460名
3.維持会費	400,000	2,000円×200名
4.預金利息	4,000	
5.雑収入	0	
合計	14,413,801	

支出の部

(単位：円)

科目	予算	備考
1.会議費	100,000	役員会食事代・他
2.広報費	300,000	会報発送関係
3.渉外費	300,000	付属高校連合会会費・他
4.印刷費	5,200,000	名簿(1,350名×3,000円)、はがき、会報、封筒、他
5.通信費	1,500,000	名簿(900名)・会報送料他
6.旅行交通費	300,000	連合同窓会、他
7.事務雑費	50,000	
8.補助費	500,000	幹事会・懇親会等補助
9.特定引当資金	5,500,000	新規会員(3年分)名簿代・送料代、会費前受金、新校舎落成記念費等
10.予備費	500,000	
11.次年度繰越金	163,801	
合計	14,413,801	

■会員の声

- 戦中、戦後の青春時代楽しい事は何にも無し、現在年1回の同窓会にて、皆んなで語り合うのが唯一の楽しみである。しかし後何年続くのか保障の限りにあらず。出来る限り永く続くことを願っている。サラリーマン、30数年、現会社設立、10余年。まだまだ現役、頑張っている。 (S25年度卒 木村 睦)
- 平成2年昭和26年入社以来40年富士通KKKに勤続し定年となり、庭いじりと読書の毎日をすごしています。会長になられた上島さんとは同期入社でした。会報はなつかしく愉しく読ませていただきました。次報を待っています。 (S26年度卒 本田 達雄)
- 昨年12月末日にて二興電気(株)を退職し、現在36年間柏に住み町会の役員として従事し、市のボランティア活動の一環として手話の勉強に勤めて居ります。 (S26年度卒 戸谷 謙次)
- ①近況：NTTを退職してより趣味を活かし、造園業で楽しんでおります。②思い出：生活が酷しかったので夜学通いでしたが、苦しい中でも楽しい学生生活でした。とくに夕食をリンゴ1つですませた時が懐かしく思い出されます。「苦あれば楽ある」 (S27年度卒 鹿島 昭治)
- 1.平成元年から再びサラリーマンに戻り、上野(元浅草)で、屋外広告物の設計・製図を楽しみにやっております。水彩画が趣味の一つ。2.高校時代は(夜間)実験が楽しく、役立ちました。人数が少なく。 (S29年度卒 赤塚 公一)
- 過ぎ去った日々を振り返れば、良い事も、悪い事も、自らが反省すべき事も、たくさんあります。中でも、我が母校東海電波高校の校門(正門)は下り坂に面しており、私の願いは登り坂に面した校門を望んでいた思い出がある。(現在はフラットである。) (同窓会役員の皆様に感謝致します。) (S32年度卒 谷越 安男)
- 夢に向かっていた若人はみんな頑張っていた。昼働き、夜勉強と…その中に女性が2人ととてもごやかないクラスでした。担任前田勝介先生、クラスメイトに松原健次さん、事務員に私、休み時間に事務所の窓口を開いて仕事をした事…みんな一生懸命働いて。勉強して、時々思い出すべき高校時代です。今は女の子2人の母親毎日主婦しています。 (S33年度卒 市川 京子)
- 高2の時、国語の中村先生の指導で、生まれて始めて、雲取山に登った事。その下山途中道に迷い、暗くなり、落合とかいう場所で泊った事。翌日、塩山のの中村先生のご実家で、皆んなで、歓迎された事等、今では懐かしい思い出です。 (S35年度卒 菅野 克彦)
- 泉岳寺との境のへいによくリスが遊びに来て心をなごませてくれた事。電気実験でコンデンサーが爆発しよう少しの所で大怪我をする所だった事。 (S37年度卒 石塚 鵬)
- 高輪、代々木、湘南など一度行ってみたいと思いますが、日常の業務が忙しくて仲々行けません。目黒駅から清正公まで都電で通っていたのがなつかしい思い出です。 (S38年度卒 功刀 昂)
- もう10年位連続毎年3月9日にクラス会を開いています。会の名称は39会(サンキューカイ)でその理由は昭和39年の卒業だからです。今年は終了しましたが、又来年3月9日に開きます。事務局をやっています。 (S39年度卒 飯田 勝洋)
- 大学卒業後、聖公会神学院で3年学び、牧師への道を歩み、現在浅草で牧師として働いております。数年に一度、クラス会らしきものを開いているようで、たまに出席します。高校在学中は東海電波高校でした。電気通信から大学受験(文学部)するには普通課(科)よりも成績が良ければ、という条件でした。なつかしい思い出です。 (S41年度卒 前田 良彦)
- 剣道の楽しさを教えて頂いた、直井先生および諸先生方ありがとうございました。現在も趣味として続けています。剣道5段、合気道4段、銃剣道2段です。一度お会いしたいですね。 (S42年度卒 伊東 正道)
- 趣味はバイクツーリング、おじさん達でレディーバードツーリングクラブを結成しており、月に1回温泉めぐりをしております。在学中は柔道部に所属、主将として活動しておりました。家族は父母含め6人家族です。 (S45年度卒 舟本 健司)
- 高校、卒業してから恩師の杉山先生の御自宅へ、遊びに行かせていただいた時に、札幌オリンピックが始まっていた。今、私には5才の子がおりますが、20数年間がいつの間にか、過ぎております。先生に会いたいと思います。 (S47年度卒 戸塚 伸吾)
- クラス会も10年以上前に行ったきり、その後東京在住の何名かで話しは出るのですが未だ実現に至っておりません。正田先生もお元気でしょうか。現在パソコンを中心としたOA機器システム会社で企画部門を担当しております。 (S48年度卒 橋川 昌樹)
- 東海大学高輪台高校を卒業し、東京農工大学(同大学院)に進学。現在は、北海道の旭川の高校で教師生活を送っています。ハンドボールコート1面しかとれない狭いアスファルトのグラウンドで、昼休みに級友たちと毎日のように野球をしたことを思い出します。 (S50年度卒 岸 広昭)
- 同窓会関係者の方々御苦勞様です。私が通学していた頃の校舎が新校舎になるとの事、喜んでいいのか、悲しんでいいのか複雑な想いです。機会をつくって同窓会に参加したいと思います。宜しく御願ひ致します。 (S52年度卒 斉藤 順一)
- 配電盤製造を営んでいます。この不景気で、今期は苦しい決算となりました。(高輪台高校にも、当社の製品があります)妻と3人の男の子がいます。高校時代は写真部の部長までやりました。(この頃は私を撮ってました)が、今は子供の写真を撮るのがやっとなです。 (S53年度卒 小川 秀雄)
- 会報創刊おめでとうございます。千葉県立高校に奉職して5年が経ちます。日々高校生を相手に悪戦苦闘の連続です。そんな折に頂いた会報を拝見し、なつかしく思い、未熟であった当時は思い出を、生徒たちへの愛着が増しております。未筆乍ら、事務局の方々の御健勝を御祈りいたしております。 (S54年度卒 鈴木 雅博)
- 「剛健旅行」の事は、大変、良い思い出となり、なぜか今でもはっきりと覚えています。3年間たった1度しか実行されなかったため、特に印象に残ったのでしょうか。今でも「剛健旅行」は行っているのでしょうか？高校時代の友人とは、今でも、会う機会があります。今後も、情報等を知りたいですね。 (S58年度卒 峰岸 正光)
- 在学当時に工業科がなくなり、更に普通科一本化ということに少し残念な思いもありますが、時代の流れもあるのではかたないと思います。電子科時代の実験レポートはまだあつたりします。会社も魚監坂下にあるので、新校舎が竣工したら訪問したいと思ひます。更なる発展を…。 (S63年度卒 中村 正樹)
- 平成5年に会社に入社し、転勤で名古屋に来ております。仕事にも慣れ、忙しい毎日を送っております。又、プライベートでも平成7年3月に結婚し、同年12月末に長女も誕生しました。異業種交流会を楽しみにしております。 (H元年度卒 伊藤 哲郎)
- 今年は、来年1月提出予定の修士論文の準備等で忙しくなります。研究テーマは「商業使用人の表見責任」で、会社内の、いわゆる中間管理職の責任について、商法の視点から検討を行うものです。伊藤先生、そして他の先生方にもよろしくお伝え下さい。 (H2年度卒 小菅 成一)
- 沖縄水産で臨時教員として頑張っています。担任もさせてもらって、毎日楽しいです。ヨットクラブも見ています。 (H3年度卒 寺瀬 雄大)
- 現在、就職活動で大変です。この経済不況の中、就職活動の時期にあたってしまつて不運だと思ひながらがんばっております。 (H5年度卒 福地 映祐)
- 高輪台高校もいよいよ男女共学になるという事で、我々高輪台で過ごした自由な雰囲気というものがなくなるのではと卒業した高輪台の友人たちも口をそろえて言っております。どうか高輪の自由な雰囲気を大切に。 (H6年度卒 小椋山 飛鳥)
- 高輪台を卒業して早くも半年。皆さんはいかがお過ごしですか。私は楽しい大学生活を過ごしています。あまりにも充実しているため高輪台で過ごした日々がとても昔の事に思えます。大学はとても忙しいです。しかし、自分のやりたいことをやっているので苦にはなりません。私は自分の選んだ道が間違つてなかつたと自信をもって言えます。みなさんは自分の選択に自信を持てますか。今の生活に満足していますか。少しでも今の生活に疑問を感じているなら、近くにいる高輪台の友人に打ちあけてみて下さい。高輪台の友人は皆親身になって相談のつてくれます。高輪台の人達はそういう人達です。私達はまだまだ若いのです。いくらでもやり直せます。1回きりの自分の人生ですから、やりたいことをやりましょう。やりたいことをやるのであれば、どんな苦難も乗り越えられるはずで。私は高輪台の思い出は書きませんでした。私達には明るい未来が待っているのですから過去を振り返る必要はありません。ただし、人生の岐路に立ったときは高輪台で過ごした楽しい日々を思い出して下さい。その楽しい日々が何か教えてくれるでしょうから。私もそういう時があったら高輪台で過ごした日々が助けてくれると思います。私は高輪台の生徒であったことを誇りに思ひます。これからもそのことを胸に秘めて頑張っていきたいです。 (H8年度卒 町田 隆志)

■会費納入会員一覧

S 25	長谷川善治 石田金藏 石井国雄 上倉文彦 金子英二 木村睦 長門新八 中田順之助 夏目芳郎 小侯昭治 大屋昭次 大副浩三 宇田川義勝 早川弘男 本市達夫 井川幸平 池田健一郎 井上昌 石関巖 伊藤勉 鎌田和夫 栗田富雄 村田達夫 中島秀夫 奥山路貞 坂路正誠 清水生 梢山将夫 鷹取弘智 上野智将 矢野良則 中原京子 中沢正智 谷村克彦 菅野智司 野尾啓元 土方良宏 芥川木廣 千田正鵬 原田秀夫 石塚正昭 上海老沢雅一 大塚和夫 前澤和春 伊藤正幸 西村松一 出村松彦 笠山政彦 三浦和彦 宮崎要夫 赤坂兼夫 伊藤勝 近藤聡 高松幸雄 磯貝	S 42	町田晴男 村田良夫 吉野正道 平林信昭 青木兼昭 鈴木哲夫 土橋美知夫 松木英雄 藤井広明 田中武明 平能光次 赤羽孝一 萩原治生 谷井明 渡辺真一 大滝富正 本沢守正 古川清裕 一条康磨 渡辺勤 富田健治郎 森井政明 服部忠昭 青砥逸朗 浅井宏誠 吉成秀樹 奥本修一 浅野道明 須藤清三 大滝定男 坂合好正 八木伸夫 小出信行 水野淳滋 吉田正弘 伊藤光一 塩田耕一 岸木昇秀 鈴木山俊一 福山宮之誠 坂西飯島隆 西宮沢靖 飯島晃 関山敦 宮中義孝 山田久 鈴木秀明 長沼元夫 沼谷和慎 谷村秀治 三瓶澤之 野川仁 横川佐一 溝口花成 尾林	S 55	德永尊彦 池谷章 上草輝 中村一 小池敏 井上英 紺野德 和田真 劉浩二 菅野博 茂野敏 新巴保 高津誠 森賢 小多加 日比野晃 菅田直 亀井哲 門馬泰 庄野栄 大城正 松岡洋 北里博 佐久間和 勝部誠 三谷英 小荻松考 藤原桑 坂下島 青木仁 大竹幸 磯田義 越智敏 井上泰 谷中治 平里翼 山内靖 古賀和 浅見樹 高橋隆 水島博 魚地健 下村治 山口昭 日比野豐 光野文 渡辺清 棚瀬元 渡邊勝 小林三 藤林健 清水英 今江祐 羽村章	S 56	桑原孝治 五島明宏 会田涉 鈴木卓 倉川智博 松田孝彦 丸田進 葛生秀幸 長谷川和 関根寛 富尾弘 佐藤岳 尾田直 茂出木成 石谷融 加藤慎 金子伸 松田和 嘉門真 卯野木寛 今野益 木内哲 青木善 小野孝 野島茂 羽村耕 佐々木啓 清水裕 岩崎勝一 谷澤朝 村田英二 森井口泰 小林健 木賀啓 真野崇 大津光 鈴木良 濱崎和 吉野道 北垣剛 谷内博 須藤智 石川永 鴨下謙 原山充 山崎亮 永野祐 菅井田智 須中大 高島敦 吉川征 芦川平 大滝憲 山直彦	S 57	S 58	S 59	S 60	S 61	S 62	S 63	H 1
------	---	------	---	------	--	------	---	------	------	------	------	------	------	------	-----

■お知らせ

◆幹事（同窓会クラス委員）会の御案内

とき：1997年11月8日（土） 14:00～
ところ：東京プリンスホテル（港区芝公園）

今後、同窓会の中核になって戴く皆さんと、一同に会してお話し合いを致したく計画しました。

ご案内は9月中旬ごろになりますが、委員（旧規約では理事）の皆様にはその節にはよろしくご出席下さいますようお願い致します。

◆同窓会費納入のお願い

会員の皆様には同窓会費（維持会費：年額2,000円）の納入をお願いいたします。現在250名強の会員の方から納入戴いておりますが、今後を考えると厳しいものがあります。同窓会を継続的に維持発展させて行くためには、皆様の協力が不可欠です。よろしくご理解とご協力をお願いいたします。

納入方法：最寄りの郵便局より、次の口座にお振込下さい。（郵便局備え付けの振り込み用紙をご利用下さい。）

口座番号	00100-9-155498
口座名(加入者名)	高輪会

《お願い》氏名欄に必ず卒業年をお書き下さい。

◆「総会」開催について

規約にて「総会」は3年に1回開催することになっております。従って次回は1998年（平成10年）秋に開催する予定となりますので、あらかじめお知らせ致します。

尚、この時点では新校舎が完成しておりますので、校舎見学も予定しております。

◆新「会員名簿」作成中!! ご協力を!!

総会の年毎に新「会員名簿」を発行する事になりました。今回は1998年3月に発行すべく現在準備に入っております。この「会報」と共に名簿作成資料を送付しましたのでご協力の程お願い致します。尚、現在会員数は18,000名を越えておりますが、判明数は約11,000名に過ぎません。各クラス等で消息をつかんでいただき、名簿原稿をお送り戴く等、何卒この面でもご協力下さいますようお願い申し上げます。

名簿原稿の送付先は次のいずれかをお願い致します。

- ① 〒160 新宿区新宿5-10-25 産報新宿第2ビル
高輪台高校同窓会名簿刊行委員会編集室
- ② 〒105 港区新橋6-19-5
東海大学付属高輪台高等学校同窓会事務局

◆クラス会・同期会のご一報を

今後「会報」にてクラス会、同期会等実施された内容を会員皆様にもお知らせしたいと計画しております。その折りには是非ご一報下さい。できれば写真等もお願い致します。

◆建学祭のお知らせ

今年度の「建学祭」は下記日時に開催されます。仮校舎のため縮小開催ではありますが、是非母校を訪ねてみてはいかがでしょうか。

とき：9月27日(土)・28日(日) 16:00まで

◆50周年記念式典・落成式

新校舎が完成する来年（1998年）秋に、50周年記念式典および落成式が計画されております。同窓会としては、新組織発足直後のため、新校舎建設に直接協力しておりませんが、この記念式典・落成式には、何らかの協力をすべく計画中であります。ご意見等あればお知らせ下さい。

仮校舎(1998年9月まで)のご案内



◆1998年9月(予定)からは、下記連絡先になります。

同窓会連絡先

東海大学付属高輪台高等学校 同窓会事務局

〒108 東京都港区高輪2-2-16

電話は現在の番号に問い合わせれば分かるようにしておきます。